

【経営の概要】

経営形態	家族経営（有限会社）
モデルの種類	中山間地モデル
設立時期	（総会）平成14年10月17日 （登記）平成14年10月17日
構成戸数	7戸
労働力	基幹2名、補助6名

【経営規模 (ha)】

	経営面積	水 稻	麦 類	大 豆	飼料米	作業受託
			小麦			
平成19年	23.0	10.4	14.5	2.0	10.7	延べ37.6
平成20年	25.7	12.5	13.0	5.2	8.1	延べ38.8
平成21年	27.5	16.0	15.0	3.5	8.0	延べ42.5

【機械装備】

トラクター（50ps、23ps、21ps）	3台	畦塗り機	1台
田植機（5条、8条）	2台		
コンバイン（6条）	1台		
自走式動力噴霧器	1台		
ロールベラー	2台		

【経営の特徴】

<p>14年 農地の受託を中心とした経営を実施し、地域の担い手となるべく法人化。 ライスセンターを所有。</p> <p>17年 経営改善計画認定。</p> <p>18年 特定農用地利用規程認定。</p>

【導入した新技術】

<p>◎自脱型コンバインによる収穫</p> <p>（手法）6条型コンバイン（Y社、GC695）による水稲、小麦の収穫を行った。</p> <p>（結果）これまでは収穫作業を外部に委託していた。 コンバインの導入により、作業委託料が減少、低コスト化につながった。 また、収穫にかかる時間は約10分/10aと効率的な作業ができ、収量や品質の向上につながる適期収穫が可能となった。</p> <p style="text-align: right;">＜6条型コンバインによる収穫作業＞</p>

◎土壌分析に基づく土づくり資材の投入

(手法) H19～21年の小麦栽培にあたって、5圃場（前作：水稲2、大豆1、飼料イネ2）で土壌分析を行い、診断結果に基づいた施肥を行った。

(結果) H20、H21年に行った土壌診断の結果、H19年は改良目標値より低かったPH、有効態リン酸値は改良目標値内に入り、土壌は非常に良好な状態へと改善された。

表 土壌診断値および土壌改良材投入量

	19年	20年	21年	(※改良目標値)
P H	5.7	6.1	6.48	5.8～6.5
有効態リン酸 (mg)	9.2	14.0	13.0	10～20
堆肥 (t/10a)	2	1	2	
苦土石灰 (kg/10a)	200	50	200	
溶燐 (kg/10a)	15～40	30	—	

<粒状苦土石灰の散布>

<堆肥小屋を設置>

◎その他特徴的な取組

飼料米を作付けし養鶏農家へ販売するとともに、コントラクターとして稲ワラを畜産農家へ供給する等、耕畜連携による水田活用を実施している。

また、園芸品目（小ネギ）の導入による経営の多角化・安定化を目指している。

◎主な波及活動

- ・豊後高田市の麦作農家を集めての麦播種前研修会にて、成果発表を行った。

【経営状況】

(10aあたり)

	労働時間(県平均比)	全算入生産費(県平均比)	所得
経営全体	10.4hr (49.8%)	75,378円 (140.8)	2.3万円
水稲	17.2hr (54.2%)	97,712円 (66.2)	
麦	5.3hr (57.3%)	66,188円 (118.4)	
大豆	4.7hr (28.7%)	56,872円 (95.8)	